月刊 JMITU
4月号

ディスカ

日本金属製造情報通信
労働組合大田地域支部
セガ　グループ分会
2020 年発行
新型コロナウイルス対応版

セガサミーグループでは全都道府県の事業所において従業員の出社を原則として停止し、５月１１日以降についても、引き続き在宅勤務の推奨が継続される見通しです。

私達労働組合機関紙についても先月同様、今月号も社前でのビラ配布は中止しホームページでの投稿を行います。

会社からは、交通費の実費精算、詳細は出ていませんが、今後の在宅勤務体制の構築に向けた取り組み支援の一環として一時金を支給するという事です。

早くこの事態が収束することを願います。

2020年　春闘・夏季一時金回答

コロナの影響で交渉が出来ない

　コロナの影響で、団体交渉が行えない中、会社より春闘要求についての回答がありました。

旧ＳＨＤ
賃上げ（一般平均）
本給　８９５円
評価給　４３０２円
合計　５１９７円
夏季一時金（一般平均）
係数２．０　７１６５１０円

旧ＳＩＣ
賃上げ（一般平均）
本給　９６８円
評価給　４１７１円
合計　５１３９円
夏季一時金（一般平均）
係数２．０　７０６７４９円

ＳＬＳ
賃上げ（一般平均）
本給　８５９円
評価給　３５８５円
合計　４４４４円
夏季一時金（一般平均）
係数２．０　７１０８０３円

一時金支給日は各社とも６月１２日（金）予定

　また会社は４月１日よりパートタイム・有期雇用労働法への対応について
①　アルバイトスタッフの時間外割増率を引き上げ、時間外手当の割増率については、アルバイト２５％のところを４月度以降（５月度給与以降）、正社員同様３５％の割増率を適用する。
②　契約社員 アルバイトスタッフへの家族手当・家族特別手当の支給対象とする 。

　この件についても、正社員と同じ手当を付けるのであれば、福利厚生リロクラブはなぜだめなのか、家族を養っているのだから、アルバイトではなく正社員にするべきではないのか、まだまだ交渉していかなくてはなりません。

コロナの影響で在宅勤務

　長い人では２カ月在宅勤務を続けている方もいると思われます。原則出社停止ですが、その中でもどうしても出社して業務をしなければならない人もいます。私たち労働組合にもいろいろな不満の声が上がっています。
「どうしても業務都合で出社、３蜜の電車でいつ感染するかわからないというリスクの中出社しているが、在宅でリスクがない人と比べて手当でも支給してくれないと割に合わない。」
「在宅勤務ですが、通信費や電気代などの経費がかかる。残業がなくなりかなり厳しい生活を強いられている。」
「コロナが収まるまで本当に給料は支給されるのか先行きが不安だ。」
　全世界で今現在も大変な状態が続いています。国の対策も後手後手ですが早く正常に戻ることを願います。
　皆さんの不安解消の為にも会社との交渉を早く開始したいと思います。
　なかなか先が見えませんが頑張っていきましょう。

4こま漫画

川﨑よしき

何で一緒に食べないの
私達高齢者だからねー
コロナ感染が怖いのよ
モグ
モグ
六〇代人

ヤバッ
飲み屋
コロナ感染予防とかで人間達はお店を休業してるからエサは無いよ
グイ
グイ
チュー
チュー

気にしないで先に食べなさい
私らは後で食べるから

畜生それでエサが無いのか・・コロナって俺達にもやばいのか？
さぁ・・僕らは大丈夫みたいだけど

俺は熱も無いし、喉も痛くない
若い人は何もないから怖いのよ

それじゃお前が今日のエサだ
バサ
バサ
教えてもらった恩を仇で返すとは人畜生にもおとる奴だ！

言ってる意味が分かんねぇ！
ヒマッ
ヒマッ
わ
私も分かんない・・

人畜生にもおとるだと？
ポテ
フン
俺にだってプライドがある！
三密屋
焼肉
大地屋

ショートショート

弾は当たらない

仙洞田一彦

四月に入ってすぐ、芝居を観に行った。

事前に劇団から連絡があった。おそらく入場券を購入した人全員に通知したのだろう。劇場は消毒した。入場者は体温測定をさせてもらう。入場時手の消毒も協力してもらうという万全の対策を取って公演する。来られない方にはチケット代を全額返すと連絡があった。

換気に注意するとはあったが野外劇場ではないので、いわゆる三密、密集、密閉、密接は避けられない状態だ。新型コロナウイルスで「緊急事態宣言」が出される前ではあったが、オリンピックの延期など、感染の危険性はすでに知られていた。だからこそ、劇団もわざわざ連絡してきたのだろう。

観に行こうかどうしようか、直前まで迷った。劇場で感染しなくても、往復の電車の中でだってその危険はあるのだ。危険といえば、スーパーの買い物中だって、散歩の途中だって危険はある。

どこにいようと危険だ、と開き直ってしまえば、観に行こうと行くまいと同じ。しかし確率というのはある。医療従事者の感染が報道される。感染確率の高い危険な職場だからだろう。医療現場で働いている人から見れば、観劇など不要不急の極致。

しかし、と思う。芝居に行かないで感染し、死んでしまったらどうなるのだろう。感染しない、死なないと分かっていたら観に行かない。ウイルスが収まってから観に行くことができるからだ。

芝居の見納めだ。

しかし、ウイルス発症まで二週間という。感染したら二週間ウイルスを振りまくことになる。それがこのウイルスの厄介なところだ。そうは言っても、劇場を出た途端バッタリ逝ってしまうのも、わかりやすいが非情な世界だ。情け容赦なくピストルで心臓を撃たれるようなものだ。二週間は猶予、温情か。

結局、劇場に行った。

埋まっている客席は半分に満たなかった。その日の入場券がどのくらい売れていたのか知らないが、いつもはほぼ満席状態なので、半分以上の人が観ない、行かない選択をしたのだろう。それでも三密でないとは言えない状態だ。後は無事を祈るだけだ。それなら来なければ良かった、などと時折、自問自答が頭の中で行われる。

役者は奮闘していたが、正直なところ命がけで観るほどの内容ではなかった。でもそれは仕方ない。観なければ分からないのだから。鑑賞力の問題もあるが、小説だって読んで見なければ分からないのだから。

寄るところもなかったので、まっすぐ家に帰った。それからおよそ一週間たって、七都府県に緊急事態宣言が発令された。

それまで熱も出なかったし、毎朝のコーヒーの味も分かった。二週間たっていないのだから当然といえば当然なのか。後一週間、悔いなく生きようなどと思うが、そんな思いは一晩眠れば、また普段の感覚に戻ってしまう。

現実に亡くなった人も出ているのだからと、自分に言い聞かせる。しかし迫って来ないのは、熱が出たり、味覚がおかしくなったりしていないからかもしれない。しかし、それでは遅いのだ。それから緊張して生活したって、後の祭り。手遅れ。

弾が飛び交う戦場の危険、怖さの体験はない。しかし今が、どこで感染するか分からない、見えないウイルスが飛び交っている戦場状態だ。弾が耳を掠めればわかるかも知れない。爆弾が落ちれば衝撃を感じるかもしれない。

電車に乗って劇場に行くなど、よりたくさんの弾が飛び交う中に、自分から飛び込んで行くようなものだ。ウイルスにその実感はない。きわめて静かだが、ウイルスという弾に当たれば、とくに高齢者は死に至る。

そう言い聞かせても、物心ついて半世紀以上生きていると、なんとかなるという感覚に負けてしまう。

芝居を観に行って二週間が過ぎた。熱も出ない。味覚も大丈夫だ。朝、目を覚ますと、熱が出ていないと感じると、まだ大丈夫だと思う。

大概の用事は近所のスーパーやコンビニで間にあう。入口で籠を手に取り、買うものは食料品がほとんど。棚と棚の間で青年が立っていて、暑くもないのに額に汗をかいている。思わず体を引いて、その棚を見るのは避けた。

惣菜の棚で老婆が、積んであるプラスチックのパックを次から次にとって別なところに移している。視線の先を見ていると賞味期限や製造日の入っているところだ。すべてのパックに触れている。あの手にウイルスがついていたらと思うと、腰が引ける。棚の間ですれ違う時、互いに顔を背ける。レジで並ぶとき、離れてと言われなくても、前の人との間に距離を取る。振り向いて次の人があまりに近いと不安を覚える。

だんだん恐怖が身に付いて来た。

散歩しているときも向かいから人が歩いて来ると、道路の反対側に移る。マスクをしていない人を見ると、思わず眉をひそめる。

それがどれ程の効果があるのか分からない。感染者の数の発表はあるが、何人検査したのか分からないから、確率の推移が分からない。陽性で待機中の人が突然亡くなったというから怖い。亡くなってから感染していたことが判明した人もいる。

一人十万円支給されるという。当面の目標としては、十万円手にするまでは、棺桶の淵に手をかけてでもふんばるしかないかと言いつつ、自分にだけは弾が当たるまいとまだ思っている。